

えました。現代は子どもの衣服を作る親も少なく、我が子の身体の特徴や感動を肌で知ることがなくなった様に思います。

私は教育的見地からしたことでなかったけれど、絵具のこびりついた手提袋が、私と息子の心を結んでいた様に思えるのです。

三世代家族の中から

斉藤みづ江さん(37歳)
主婦 西国久保

私の家庭は、最近少なくなった三世代同居家族です。世代も、明治、大正、昭和10年代から50年代までと、8人家族で、当然そこからは、価値観のずれ、好みの違いが生じます。しかし、それもどの様にゆずり合い、助け合い、いたわり合っ一つの家を築いていくかということ、子どもは学んでくれると思います。

2年前に姑が脳いっ血で倒れ、寝たきりの状態が続いていますが、その中で健康の素晴らしさや支え合って生きることを知りました。

また、私自身、「子どもは親の言う通りにはならない、する通りになる」

という言葉の心の支えにし、子どもたちの言葉、しぐさの中に、自分の在り方をみつめながら心して暮らさねば…と言い聞かせながらの毎日です。

そして、大きな声で、はっきり話のできる子どもになるよう、また、いろいろな無限の可能性を信じて、コミュニケーションに努めています。欠陥だらけの母親が、子どもによって育てられている感じがします。



愛犬といっ緒に植松さん

動物 大好き!

植松かな江さん(34歳)
主婦 富士岡

我が家では、生き物を飼ったり、植物を育てるのがみんな大好きです。

四季を通じ色々な草花を楽しんだり、小動物や昆虫を飼い、動植物の愛護や尊さを知り、自然とふれあいながら親子のコミュニケーションを育てています。

巣から落ちた生まれて間もない雀をみんなで育て、巣立ちさせたり、捨てられて、かわいそうにと育ててい

た猫が、車にはねられて死んだ時、子ども達といっしょに弔いをしたり。

身近な出来ごとでも、互いに話しあい、協力しあうことで親子の信頼感が深まり、これからの子ども達の人生に、大きな影響があるのではと思います。

何気ないかもしれない普段の生活の中で、その時、その時を互いに卒直に話しあえる親子関係を育てることが、ほんとうの意味での親と子のふれあいにつながるのではないのでしょうか。



今井 波さん 三原あけみさん 平井悦子さん 大熊朋江さん



「そうだから」はとてども 温かみのある方言

プロフィール

富士へ来て三年から五年という、市内の養護施設へ勤める保母さん達。「若い保母さんが多いので、毎日日がとても賑やかです」と元気いっぱいのみなさんです。

みなさん県外の出身だそうですが
平井 私が新潟県栃尾市、三原さんが兵庫の神戸市、今井さんが福島県いわき市
大熊さんが埼玉県八潮市です。出身地と同じ様にみんな趣味も多彩なんですよ。

富士の印象は

平井 新潟出身の私は冬でも洗濯物が外で干せるのにはびっくりしました。

一同 でも臭いはちよつと気になるわね。

一同 人柄なんかはどうですか

一同 方言で「そうだから」と言葉の語尾に「だら」をつけるのが、とても親近感が持てて温かみのある方言で、富士の人たちの人柄を感じさせますね。

施設での子ども達との生活は

平井 毎日が変化に富んでいて、子どもといっしょに泣いたり、笑ったり楽しい毎日です。

行政に望むことはありますか

一同 行政へというよりみんなに養護施設についてもっと知ってほしいですね。

※今回で「あの街わが街」は終了させていただきます。次回からは新しい企画で登場しますのでよろしく。